

会長就任のご挨拶

築瀬知史（東日本高速道路株式会社）

2025年9月8日に開催された総会において第19期会長に選出された築瀬（やなせ）です。

私の会長就任の意味は、16期から続いている組織改革の中、編集システム導入以外で取り残されている事業部門の透明化と合理化と同義であると考えます。

17期、18期では、高橋前会長が大ナタを振るって学会誌のデジタル化を導入し、冊子の廃止による大幅な支出削減および編集業務の省力化がなされ、4年間で満足のいく決着を見ました。

しかし、他の事業部門についてみますと、経理的な面については、財政の危機的な状況を脱したとはいえ、「経理」そのものの適正化は未達成と言え、少しずつ見直す必要があります。総務部会で所掌する会員管理と会費管理（経理部会）は、ほとんどが人力で対応するようになっており、ヒューマンエラーと無駄な労力、無駄なコストを出し続けていると言え、学会ホームページ管理に至っては、構造が複雑でわかりにくい状態で抜本的な見直しに迫られおり、HP・広報部会準備委員会を立ち上げます。

諸問題を掘り下げていくと、特定の理事が長く就任することで、様々な業務の引継ぎが出来ない属人的状況となっているものが多く、理事会で決まったことになっている「おかしな事」がいつまでたっても会則にも内規にも反映されずにまかり通っているなど、組織としては致命的な欠陥が見えてまいりました。

数年前までは、自己申告（自称学生会員、会費未払いのまま投稿やイベント参加など会員特典享受）OK、無記名の領収書配布など、物理的な対応困難から「なあなあ」で済まされてきた内容は、致し方のないこととは言え、時代の流れからは逆行していると言わざるを得ませんが、労力が膨大で、ボランティアの域を逸脱するのも事実と言えます。

この2年で、それら生命線とも言える会費収入の基礎をしっかりとさせ、可能な限り、人力対応からの自動化と分かりやすくシンプルな仕組み作りに取り組んで参ります。

これによって、多大なご負担を強いている事業部門系を担当される理事の負担軽減がなされ、今後、様々な学会活動が活性化しやすくなると信じております。

研究部門につきましては、活動等現状を維持したうえで、監事からの提言にあったように、近年多くをWebに頼っている活動に加え、空気感を踏まえたうえで情報交換や議論など対面での開催も復活して行っていただきたいと思います。

当学会で、他にない特徴を考えると、今のところ安価な年会費と掲載料しか思い浮かびません。今期からは、少しだけ若手会員の獲得・定着に向けた方策を講じていきたいと考えます。

若手技術者育成に関して申し上げますと、自身、人は「育てるもの」ではなく、きっかけさえあれば「勝手に育つもの」と考えます。そのための器（機会）を提供するのが学会の役目で、全面的にバックアップしていきたいと考えますが、会員獲得のために必要なことは、やはり、会員が、「有意義で、楽しいと覚悟すること。」で、ある意味商売の極意と変わらないと思います。

どこまでできるかはわかりませんが、軌道に乗るかも皆目見当もつきませんが、各地方で行われる研究部会の行事などに抱き合わせて、若手研究者・技術者向けの技術交流会の開催を考えていますので、企画部会、各研究部会等での対面行事を企画される際には、お声がけいただくと幸いです。

会員の皆様には、積極的にそして無理のない程度に、ご協力いただきますようお願いいたします。